

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	「働くまち鎌倉」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」を実現	鎌倉市
アイデア名 (注1) (公開)	お母さん達が、子育てをしながら、再び働きやすい街・鎌倉の実現		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	幼児を子育て中のお母さんチーム		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	4名		
代表者情報	氏名 (公開)	大平 恵子	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

「お母さん達が再び働くこと」は、想像以上にハードルが高いもの。それでも、再び社会に出たいと願った時、鎌倉市では、他の自治体より、丁寧にサポートすることにより、良い条件・恵まれた環境での就労を実現する。そのことが、本当に実行に移すことができれば、他の自治体との差別化が図られ、ファミリー層・若年層に選ばれ、定住者数が高められると考えられる。

「働く女性」というと、「正規職員で働き続けている女性」を表現しがち。その一方で、「子育てのために、一度家庭に入ったお母さん達」にスポットが当たることは少ない。だからこそ、「子育てのために、一度家庭に入ったお母さん達」を街を挙げて応援することを着実に実現し、情報発信に努めれば、少子高齢化が進んだ現在において、先進的な街として鎌倉市が注目を集められると考えられる。近隣の藤沢市は「主婦が幸せに暮らせる街」、横浜市戸塚区は「子育てがしやすい街」と一般的に言われているが、鎌倉市も新たな街の魅力が得られる。

「仕事か、子育てか」の二者択一ではなく、「仕事も、子育ても」が、もっと多くの女性が実現できることを目指す。鎌倉市では、子どもが小さいうちの子育てに丁寧に向き合い、その後は、お母さん達が社会で再び活躍できることができれば、子ども達はより良く育ち、お母さん達が希望を持って生きられるのではないだろうか。

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、**2 ページ以内**でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

「鎌倉市人口ビジョン、鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

○鎌倉市の状況 晩婚化、晩産化、ファミリー層が転入

第1編 人口ビジョン

第5章 第4節 晩婚化の状況（P.9）

初婚年齢が、妻 30.9 歳と上昇している。（平成 25 年）

第5節 晩産化の状況（P.10）

出産年齢の上昇（晩産化）が進んでいる。35 歳以上の女性による年間出産数が増加している。

第6章 第1節 年齢階級別の人口移動の状況（P.11）

社会増減数に着目すると、30 歳代、40 歳代と、0 歳から9 歳までにおいて、転入の超過がみられ、ファミリー層が転入していることがわかる。

第5節 女性の高学歴化と合計特殊出生率の関連性（P.25）

鎌倉市は、大卒等率が高い都市のひとつ。

第8章 第1節 市民対象調査（P.26）

晩産化の要因の把握にあたり、独身にとどまる理由として、国調査結果と比較すると、「仕事（学業）に打ち込みたい」などが総じて高くなっている。

○鎌倉市の問題点

第9章 第2節 鎌倉市の課題と強みを生み出す要因（P.37）

1) 出生率が低い水準に留まる要因：女性のキャリア形成に対して不十分な環境

結婚をしない理由として、「仕事（学業）に打ち込みたい」や「趣味や娯楽を楽しみたい」ことが国調査結果と比較して高いことや、子どもを持つことへの問題や不安と捉えることとして、保育所や家事・育児の協力者について、国調査結果と比較して高く挙げられていることなどから、女性のキャリア形成に対して、出産・育児について柔軟な支援が十分でないことが、晩婚化・非婚化をはじめ、出生率を低く留めている要因のひとつであると考えられます。

第3節 目指すべき将来の方向（P.38）

「働くまち」であることは、職住近接のライフスタイルが可能となることでもあることから、出産・子育ての様々な負担の軽減により、出生率の向上に対する効果も期待されます。

今後「住み続けたいまち」として本市があり続けるためには、すべての世代での生活のしやすさが必要であり、特に出産・子育てという大きなライフイベントにおいて、適切な支援が必要です。このため、市内・市外どちらへ通勤する世帯にも出産・子育てとしごとの両立を前提とした支援を進め、市民の希望する出生率の実現を進めます。

（表）鎌倉市人口ビジョンの考え方（P.39）

留意すべき視点として、キャリア形成を前提とした適切な出産・子育て支援

○鎌倉市の解決策

第2編 総合戦略

基本的方向3 様々なライフステージ、キャリア等に応じた就労環境を整備します（P49、50）

本市の女性は、正規雇用率が高い状況にあります。その一方で、市内の子育て家庭の女性は、パート・アルバイトなど、短時間勤務や柔軟な就業形態を希望する面もあります。この点を踏まえ、様々なライフステージ、キャリア等に応じた就労環境の整備に向けた取り組みを進めます。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

お母さん達が、子ども達の成長に合わせて、一人ひとりにとって最適な状況で働けるようにサポートする。具体的には、鎌倉市マザーズハローワーク（仮称）を開設する。

○鎌倉市マザーズハローワーク（仮称）の特徴

お母さん達の思いに寄り添い、かつ、実践的な情報提供の場とする。

職員はカウンセラーのような役割も果たし、有益な情報の提供に努める。

お母さん達の希望に合った仕事を開拓する。（まずは市内、将来的には市外でも。）

より良い仕事とのマッチングを行う。

中・長期的なキャリアプランについても相談できる。

一人ひとりの相談に、親身に乘れる体制を整える。

上から目線ではないアドバイスが受けられる。

不本意な就労となった時、相談窓口としての役割を果たす。

※お母さん達の就労の希望

子ども達が幼稚園・小学校に行っている間に働きたい。（9時から14時までなど）

なるべく、学童保育には預けたくない。

土・日曜日、祝日は、なるべく子どもや夫と過ごしたい。

一週間の内2、3日程働きたい。

家から近い場所で働きたい。

自分の子どもが体調不良の時には、休みやすいとありがたい。

病児・病後児施設が整備され、利用しやすくなってほしい。

夏休みなど、長期休暇中には、安全で安心できる預け先を確保したい。

長期休暇中は、休みを増やしたい。

⇒ これらの「本音」の希望を声高に主張すると、雇い主から、面倒な労働者として扱われてしまう。

⇒ 最初は希望通りであっても、日数が経過すると、職場の都合に合わせて、無理な就労が強いられがちになる。

⇒ 理不尽で嫌な思いをしがちなので、なかなか就労に踏み切れない。

※お母さん達の就労の実情

子ども達に、さみしい思いはさせたくない。

緊急時に、実家が遠かったり、親が高齢で頼りづらかったりする。

子どもがインフルエンザにかかる、長期の休みが求められる。その状況に対応できる応援体制を整えにくい。

○鎌倉市マザーズハローワーク（仮称）の事業案

①私の強み・魅力再発見セミナー（仮称）の実施

お母さん達数名と、アドバイザーで行う。自己紹介、ディスカッションを行う中で、仲間と共に自分の強み・魅力を再発見する。幼稚園・小学校のママ友同士の参加を歓迎する。前向きな気持ちで働き始める、第一歩を後押しする。

②ヘルパー、保育士などの資格取得講座の実施

鎌倉市には、高齢の方が多く暮らしている。新たな仕事を見付けるためにも、ヘルパー講座などを実施し、働くためのスキルを身につける。「家から近い場所で働きたい。」という希望は、鎌倉市のお母さん達が、高齢の方と関わる仕事を増やすことによっても実現しやすくなると考えられる。また、お母さん達自身が、自分達の老いていく両親と向き合っていかなければならない。世代間の交流は、将来のためにも役立てられるのではないだろうか。そして、保育士資格は試験を受けて取得することができる。子育て経験を活かし、就労場所を広げられる保育士試験の試験対策・応援講座も効果的であると考えられる。

③ファミリーサポートセンターとの連携

お母さん達の良き就労の場として、また、働く際のサポート体制として、積極的に連携していく。

④インターネット上で情報発信

オープンサイトを運営・管理し、取り組みを積極的に情報発信していく。一人でも多くのお母さんに「私もやってみようかな。」と思ってもらえるように。鎌倉市の魅力の一つとして、全国的にアピールできるように。

⑤役所・学校なども、フレキシブルに働ける場所として開放する

デスクワークが提供できる。一般的に、賃金の低いブラックバイトと言われがちだが、お母さん達がフレキシブルに働ける場所として開放する。例えば、10時から13時まで集中して働くなど。仕事を探し出し、お母さん達が働きやすい時間帯に働いてもらえれば、ワークシェアリングが図れると考えられる。また、一般企業でも応用していくことが期待できる。

⑥鎌倉市マザーズマーケット（仮称）の開設

観光客に向けて、お土産を販売する。鎌倉駅近くに開設できることが望ましい。お母さん達が幼稚園のバザーに出品しているような、女性、子どもが使いやすい手芸品などを販売し、作り手の収入とする。

○お母さん達の希望・思い

- ・小さい子どもを育てている時期は、社会人として、人生の谷間のような時期。そのような時でも、希望を持ち続けられるようでありたい。
- ・子育ては、時にしんどい思いを抱えるもの。それでも、手を掛け、気を配り続けることは、人間としての力を高めていると考えたい。お母さん達一人ひとりの力を生かす場を見付けたい。
- ・敷居の高い「お役所仕事」とならないように、親しみを持って頼ってもらえるように、運営自体も、お母さん達の良き就労の場とする。
- ・お母さんであっても、将来のために、自分の世界を作っておきたい。

○子ども達が、健やかで元気に育つ街

- ・小さい頃に十分に子ども達と向き合うことにより、子ども達のより良い育ちにつながると考えられる。
- ・幼児期の子育てを軽んじているような方もいられるが、決して望ましくない。
- ・保育園の待機児童問題の解消策。無理して働き続けなくても、しばらく子育てに向き合い、再び就労できることに、現実的に希望が持てれば、新たな選択肢ができると考えられる。
- ・仕事をがんばっていると、時間に追われ、自分の子育てにひずみを生じさせるような実感があつた。しかし、努力を重ねても、どちらにも十分に向き合うことは難しかった。仕事か子育てか、どっちつかずの中途半端さはとても苦しかった。
- ・ニュースで、不登校やいじめ問題が増えていることが取り上げられるが、それらの問題の解消の一翼を担えるようでありたい。